

日々  
の  
仕事

私は人の役に立てる仕事がしたくて消防士になりました。消防士として採用されると、いきなり消防署で働くのではなく、まず消防学校というところに6か月入校します。教官と生徒という関係で、まずは敬礼のやり方から始まり、失敗すれば腕立て伏せをするというようなところでした。実際の現場訓練はもちろんですが、教科書を使う座学もあり、様々な消防の仕事の基礎を学びました。

6か月の教育を終え消防署に帰り、ほとんどが初めは消防隊として任命されます。消防署の仕事は火災現場で放水をする消防隊、人命救出をする救助隊、救出された傷病者を病院へ搬送する救急隊の3部隊で構成されています。その他現場以外に火災予防などを担当する事務職の仕事もあります。私も初めは消防隊として任命されました。その初日から火災現場があり、実際の現場は緊張と恐怖で体が思うように動きませんでしたが、しかし先輩の適格な指示により大きな失敗もなく無事に役目を終え署に帰ったことを覚えています。

5年間、消防隊や救助隊として働いていましたが、6年目に救急隊として任命されました。救急隊は消防の現場出場の中で一番多い隊であり、24時間勤務で深夜問わず出動指令が鳴りやみません。かなり体力的、精神的にしんどい仕事です。消防士になった当初は救急隊の仕事を見て敬遠していましたが、出場を重ねるうちになぜか魅力を感じ、救急隊としてこれから頑張っていくという決心が芽生えました。それは、私は消防士になった理由が人の役に立ちたいという強い思いがあったからです。出場が多いということは、多くの人に役立っていると思ったからです。多くの人に感謝されることもあり、やってよかったと実感もでき充実した仕事を送れています。現在、救急救命士の資格を取り命を預かる責任が増し苦勞することも多いですが、日々人の役に立つという初心を忘れず任務に取り組んでいます。

やっぱり  
よかった

